

カリキュラム・マップ

異文化コミュニケーション学部の教育目的

変化を続ける世界の中で、複数の視点からものごとを考え、柔軟な思考力をもって実践的に問題と向き合うことによって、多様で「異なる」他者と共生し、持続可能な未来を創ることのできる人材を育成する。

学修成果

「学士(異文化コミュニケーション学)」を授与される学生は、以下のような能力を有する。

- ① 論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。
- ② 自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。
- ③ グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。一つの外国語については、高度な言語運用を行うことができる。もう一つの外国語については、日常レベルで通用する言語運用を行うことができる。
- ④ 多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。
- ⑤ 日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。
- ⑥ 異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。
- ⑦ 教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。
- ⑧ 文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
言語・コミュニケーション研究入門	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、言語・コミュニケーションの研究について基本的な知識と多面的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△				○		◎		◎
グローバル・スタディーズ研究入門	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、グローバル・スタディーズの研究について基本的な知識と多面的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△						◎		◎
基礎演習	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となる日本語コミュニケーション力、情報リテラシー、日本語での論理的思考力を身につけ、日本語で論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△					○
Cultural Exchange	必修科目	2~4	多様な国からの学生と共同学習を実施することにより、多様な文化的知識を身につけ、異なる文化に対して理解し、受容することができる。日本語に限らず複数の言語を用いて他者とコミュニケーションを行うことを通して、実践的な異文化コミュニケーション対応能力を修得し、自ら使うことができる。	○	◎	◎	○	○		△		◎
College Life Planning	選択科目 基盤科目	1~4	本学部での4年間の学びの礎を築くため、キャリアプラン、留学などの取組みについて理解し、実践につなげることができる。	○	○						◎	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
コミュニケーションセミナー (ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1~4	1・2は、「聞く・話す・読む・書く」の4技能のうち、「聞く・話す」に重点を置いて初級レベルの文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。3は留学準備用と継続学習用の2種のクラスを設定し、中級レベルの文法、表現、語彙を理解し、それを使うことができる。	○	○	◎	○				○
コミュニケーションセミナー 3A-R(英語)	選択科目 基盤科目	2~4	英語圏の文化や思考法について学び、それを説明し、受容することができる。英語を通して他者の考えを理解し、英語で論理的に自らの意志を伝えることができる。英語コミュニケーションの様々な状況において、英語を適切に使用することができる。	◎	◎	◎					○
Seminar in English	選択科目 基盤科目	1~4	異文化コミュニケーションに関わる特定のテーマについての英語での講義を理解した上で、自らの意見を述べたり、他者と討議することができるようになる。	◎	◎	◎				○	○
〇〇語レクチャー(ドイツ語・フランス語・スペイン語・中国語・朝鮮語)	選択科目 基盤科目	1~4	当該言語を通して当該言語圏の地域、社会、文化等を理解し、当該言語を用いてそれらについて議論することができる。	◎	◎	◎	◎			○	◎
日本語コミュニケーション	選択科目 基盤科目	1~4	「相手の話を理解する」「自分の意見を明確に相手に伝える」ために必要な日本語能力、日本語スキルを身につけ、自ら使うことができる。	○	◎				○		
ビジネス日本語コミュニケーション演習	選択科目 基盤科目	3・4	敬語を含む待遇表現や電話対応など、ビジネス場面で必要とされる日本語スキルを修得し、自ら使うことができる。場面に応じた適切な日本語使用の必要性、重要性について認識し、日本語を適切に使用することができる。	◎	◎				○		○
諸言語特別演習	選択科目 基盤科目	2~4	異文化コミュニケーション学部で常に学ぶことができる言語以外の外国語を集中的に学び、様々な言語の知識を身につけ、それを自ら使うことができるようになる。同時に、言語の背景にある文化的知識を学び、それを説明し、受容することができる。	△	△	◎	◎				○
海外留学研修	選択科目 基盤科目	2・3	英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、朝鮮語いずれかの言語圏への留学を通して、当該言語の語学力を高めるとともに、異文化対応能力を身につけ、それを自ら使うことができる。異文化を自ら経験することを通して、異文化理解や異文化コミュニケーションの価値を認識し、感じるすることができる。	○	◎	◎				◎	○
インターンシップ	選択科目 基盤科目	3・4	企業やNGO、公的機関において、実務の中で自らの知識やスキルを実践的に用いる経験を通して、社会人・職業人としての基礎知識や心構えを持つようになる。さらに、自らの職業適性や将来の職業選択について具体的に考える機会を得る。	◎	◎	△					
Japan Study Program	選択科目 基盤科目	2~4	言語、社会、文化、歴史等、様々な視点から「日本」を学び、さらに教室での学びを現場で体験することを通して、日本を複眼的に見る機会を得る。	○	○					◎	

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
海外フィールドスタディA	選択科目 基盤科目	1~4	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国が抱える社会問題などを体験を通じて理解し、受容することができる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				△	◎	◎
海外フィールドスタディB	選択科目 基盤科目	3~4	海外のフィールドにおいて、自らの専門性を土台にしなが社会の諸問題に実践的に取り組むことを通して、ある課題の解決/改善に取り組むプロセスを組み立て実行できるようになる。そしてその国の人々との交流、対話、協働を通し、異文化社会における自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎				◎	◎	◎
サービラーニングA	選択科目 基盤科目	3~4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
サービラーニングB	選択科目 基盤科目	1~4	地域連携活動としての豊島区内の中学校および本学内における現場での入り込みによる支援や学習サポートを通して、異なる生活や文化などさまざまなバックグラウンドをもつ生徒との交流を年間にわたり実践することで、異文化社会そのものの理解や自己のコミュニケーション能力を身につけることができる。	○	◎	◎	○	◎	△	◎	◎
言語学概論	選択科目 基礎科目	1~4	言語の構造と機能に関する基礎知識を持ち、身近な言語現象に関して言語学的な観点から説明することができる。言語の多様性について理解し、母語や学習している言語、その他様々な言語の特徴を対比してその違いと共通点について考えることができる。	◎	○						
英語学概論	選択科目 基礎科目	1~4	英語の仕組みと運用の諸相について、日本語と対比することができる。英語コミュニケーションの理解を深め、自ら使うことができる。特に世界語としての英語のパラエティについて学び、分析することができる。異文化・異言語の人々とのコミュニケーションをはかるために必要な英語力について認識を高め、それを自ら使用することができる。また、授業内レポートや課題図書レポートのディスカッションやプレゼンテーションを通して、内容を批判的に考察し、意見を述べるすることができる。	◎	◎	○	○		○		○
日本語学概論	選択科目 基礎科目	1~4	日本語を母語としない人々に日本語を教える際に必要な日本語の特色を理解し、説明することができる。音韻、文法、表記、語彙など様々な日本語の特徴を知り、他の言語と比較することができる。	○	○				○	○	
通訳翻訳概論	選択科目 基礎科目	1~4	異言語・異文化間コミュニケーションにおける仲介行為としての通訳翻訳という視点から、現代社会における通訳翻訳のさまざまな実践状況および主要な課題について理解し、説明することができる。通訳翻訳研究における基本的な用語と概念を理解し、説明することができる。	△				○	△	○	○
コミュニケーション研究概論	選択科目 基礎科目	1~4	コミュニケーションにかんする基礎的な理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学と隣接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。日常的に行っているコミュニケーションを以前とは異なった視点で観察したり、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。	○	○				◎		◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
異文化コミュニケーション概論	選択科目 基礎科目	2~4	(異)文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎	
国際協力・開発学概論	選択科目 基礎科目	1~4	国際協力の基本的な考え方と方法、および日本が国際協力を展開するようになった経緯を理解することができる。身近なことから国際協力が実践できることを発見し、学生として何ができるかを具体的に考えることができる。	○	○				◎	○	○	
文化人類学概論	選択科目 基礎科目	1~4	人間の文化についての総合的学問である文化人類学の基本的知識を獲得し、その目的と意図を理解し、説明することができる。また、文化人類学的な思考法を身につけ、周囲の社会現象を把握する際に活用することができる。	○	◎			△	△	◎	○	◎
カルチュラル・スタディーズ概論	選択科目 基礎科目	1~4	様々な文化的表現(文学、音楽、メディア等)がどのように社会と結びついているかを考えようとする学際的な領域であるカルチュラルスタディーズについて基本的理解を獲得し、説明することができるようになる。また、周囲に存在する様々な文化的表現を社会的な問題と結び付けて把握することができるようになる。	○	◎					◎	○	◎
文化史概論	選択科目 基礎科目	1~4	文化の歴史とは何かという問いを、一国の枠組みだけから考えるだけでなく、グローバルな諸関係を視座に据えて考えることができる。様々な流動する複数の要素間の関係の絡み合いとして文化をとらえ、文化変容のプロセスを理解することができる。	○				○		◎		◎
サステナビリティ学概論	選択科目 基礎科目	1~4	現代世界が抱える環境、文化、人権、ジェンダーなどをめぐる諸問題を理解した上で、未来に向けて、人間と周囲の自然環境、人間と人間の関係の持続可能なあり方を探るための考察力や問題解決能力を身につけることができる。	○						○	○	◎
多文化共生論	選択科目 基礎科目	1~4	日本における多文化共生の実践例を学ぶ。多文化共生の実践現場における現状を課題を知ることにより、具体的に解決策を模索できるようになる。多様な背景をもつ他者とどのように共存できるかについて考察を深める。		○			○	○	○	○	◎
グローバル化と宗教	選択科目 基礎科目	1~4	宗教・信仰が人々の生活とどのように結びついているかを学び、それを踏まえて文化圏を超えて広がった宗教が、各地に根付く過程で経た変容と、受容側の社会、生活、文化に与えた影響について考察し、説明できる。また、グローバル社会における宗教のあり方について、具体的な事例の分析を通じ、自分の考えを述べるることができる。	○	◎			△			△	◎
文化と芸術	選択科目 基礎科目	1~4	音楽、美術、演劇等、芸術の諸領域における、個別の時代・作家・作品について、歴史的・社会的・文化的背景などを考慮した多角的な解釈の方法を学び、説明することができる。芸術や文化の本質やそれらの関係について自分なりに考える力を修得し、自らそれらについて意見を述べるることができる。	◎	○	○			△	△	○	◎
コンピュータ・リテラシー	選択科目 基礎科目	1~4	言語教育および言語研究に必要なコンピュータ・スキルを学び、使うことができる。具体的には、基本的なソフトウェアが使いこなせるようになるとともに、学生管理や教材開発、データの分析などに必要なソフトウェアの使い方、その知識を身につけ、実際に必要な場面で活用できるようになる。	△						○	○	○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
心理言語学	選択科目 専門科目	3・4	Students will examine and be able to explain the study of how humans comprehend, represent, and acquire language. Students will analyze and be able to illustrate the cognitive, social, and neural processes involved in language use.	○	○					△	
社会言語学	選択科目 専門科目	3・4	ことばと文化・社会の関係について学ぶ。文化の違いによる言語運用の特徴、社会変化による言語変化、話者の社会化による言語発達、話者の属性や場面による言語運用の多様性などについて、言語実態や言語意識の調査・分析を学び、ことばの働きに対する洞察力を養い、身近な言語現象を社会言語学的視点で考察することができるようになる。	◎	○	△	○	○	○	◎	◎
認知言語学	選択科目 専門科目	3・4	人間が事象をどのように意味づけ、切り取り、環境世界を構築してゆくかという認知プロセスは、ことばに何らかの形で反映されていると理解する。我々が世界をどのように分類し、概念化するかの仕組みを、ことばの中に表れるメタファー、プロトタイプ、図と地、視点、構文等の現象を手がかりに分析し、語るすることができる。	◎	○						
語用論	選択科目 専門科目	3・4	言語使用の認知的・社会的・文化的側面についてより深く理解し、説明することができる。場面に応じた適切な言語使用とは何かについて考察し、言語コミュニケーションの意義を認識し、自ら事象にあてはめ分析することができる。	◎	◎	○	○		○		○
文化記号論	選択科目 専門科目	3・4	記号論的な視点を学びながら、様々な文化現象を記号とみなす試みを考察し、記号とは何か、意味とは何か、文化とは何か、といった問題を検討することによって、論理的・批判的思考能力を養い、自らそれらを使用して意見を述べるすることができる。	◎	○				○		○
第1言語習得理論	選択科目 専門科目	3・4	主に発達心理学、言語心理学、認知言語学、認知心理学、生成文法などの分野の、言語の獲得にかかわる基本的理論を理解し、説明することができる。人間が第一言語を習得する過程を、音声、語彙、統語、コミュニケーションなど各側面について理解し、実際のデータを用いて分析することができる。	◎		△	○	○		○	△
第2言語習得理論	選択科目 専門科目	3・4	第2言語習得のメカニズムについて理解し、述べることができる。第2言語習得の理論構築の歴史を概観しながら代表的な理論やモデルについて説明することができる。さらに、最新の第2言語習得研究の動向を常に意識し、それらの内容について正確に理解し、自らの研究へと発展させることができる。	◎	○		○		○	○	
バイリンガリズム研究	選択科目 専門科目	3・4	バイリンガリズム(二言語併用)について、言語学・心理学的視点および教育学的視点から理解することができる。二言語併用者の言語能力、言語習得ならびに言語使用の特徴、知能や思考・認知能力、バイリンガル教育の種類や方法、効果などについて理解し、具体的事例を挙げながら説明することができる。	◎	○	△	◎	◎	○	○	○
英語教育学	選択科目 専門科目	2~4	そもそも英語とはどのような言語なのか、なぜ世界の共通語になったのか、日本人は歴史的に英語とどのように接して来たのか、世界にはどのような英語教授法があるのか、日本にとって英語はどのような言語であり、戦後はどのようにして教えられてきたのか、ヨーロッパではどのようにして英語を教えているのか、日本の英語教育の問題点は何か、今後の日本の英語教育はどのように変わるのか、など根源的な事柄について理解できる			○	◎	○		○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
英語コミュニケーション教育学	選択科目 専門科目	3・4	英語によるコミュニケーションを想定した多面的な言語活動のための教授法を理解・習得して授業に活かすことができる。英語クラスにおけるコミュニケーション活動練習のための授業案を書き、それに基づいて授業の準備をし、実際に教えることができる。	◎	◎		◎		◎	◎	◎
英語科教育研究	選択科目 専門科目	3・4	英語教育はどのような学問領域から成り立っているのか、英語はこれまでどのように教えられてきたのか、コミュニケーション中心の教え方とはどのようなものなのか、今後日本では英語をどう教えるべきか、教員の役割とは何か、学習者はどう学習しているのか、語彙や文法とは何か、どう教えるべきか、教材はどのようにして作られているのか、どのように教科書で英語を教えればよいのか、などが理解でき、実践できるようになる。				◎	○		◎	○
外国語教育評価論	選択科目 専門科目	3・4	言語テストの種類、測定方法、測定尺度、テストの信頼性と妥当性などを理解し、説明することができる。得られたデータを分析・解釈する手法を身につけ、それを自ら使うことができる。	○	△		○			○	
言語研究特論	選択科目 専門科目	3・4	言語研究の理論と方法を用いて、実際の言語事象である音韻、形態、統語、意味についての構造と使用原理を論理的に分析し、理解し、正確に説明及び記述することができる。	◎	○		◎	◎	○	○	◎
日本語学特論	選択科目 専門科目	3・4	外国語、第2言語、継承語としての日本語を巡る様々なトピックを学ぶことにより、日本語を母語としない人々に日本語を教える際に役立つ知識を身につけ、それを実際の教育に用いることができる。	○	○		○	○		○	○
日本語教授法	選択科目 専門科目	2~4	母語ではなく1つの言語としての日本語の諸特性を理解し、説明することができる。日本語を母語としない人に日本語をどう効果的に教えるかを理解し、具体的に述べることができる。教材分析、教授法の比較、教案作成、問題作成などをすることができる。	○	○		◎	◎		◎	○
日本語教育実習	選択科目 専門科目	3・4	具体的な学生のレベルを想定し、教材作成、教案作成をすることができる。学生間での模擬授業を経て、最終的には実際の学生に授業を行い、その結果を相互で評価し、個々人の教授スキルを改善することができる。	○	○	○	◎	◎		◎	○
言語研究調査法	選択科目 専門科目	3・4	言語研究を行う際に必要となるツールや、調査・実験の計画方法、データの処理や分析方法などについて学び、自らの調査や研究に応用することができる。質的分析・量的分析の特徴を理解し、言語の諸現象について論理的に説明することができる。	◎	△		○			○	
通訳入門	選択科目 専門科目	2~4	アクティブリスニング、パブリックスピーキング、ノートテイキングなしの通訳、ノートテイキングに関する初歩的なスキルを習得し、簡単なスピーチを逐次通訳することができる。通訳学の基本的な概念や理論を理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
逐次通訳	選択科目 専門科目	2~4	ノートテイキングをもとに一般的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。やや専門的なスピーチの通訳の準備を効果的・効率的に行うことができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、自律的な通訳練習が行える。	△		◎		◎	△	○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
同時通訳入門	選択科目 専門科目	3・4	準備をもとに、専門的な内容のスピーチを正確に逐次通訳することができる。同時通訳における基本的方略を学び、準備をもとに、一般的な内容のスピーチを同時通訳することができる。通訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの通訳パフォーマンスの評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳入門	選択科目 専門科目	2~4	翻訳学の基本的な用語、概念、理論を理解し、説明できる。一般的な内容のテキストを分析し、コミュニケーションの目的に合わせた方法に基づき、目標言語に翻訳することができる。基本的な翻訳ツールの使用法について理解し、説明できる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践1	選択科目 専門科目	2~4	ビジネス翻訳、字幕翻訳、ニュース翻訳など特定専門領域の翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルについて理解し、説明できる。基本的な翻訳ツールを使用できる。翻訳学の理論や研究成果を参照しながら、他の学生や自らの翻訳の評価ができる。	△		◎		◎	△	○	◎
翻訳応用実践2	選択科目 専門科目	3・4	技術翻訳など特定専門領域の幅をさらに広げた翻訳実習を通して、各領域に必要な知識やスキルの習得方法について理解し、説明できる。翻訳プロジェクト管理における基本的な用語や概念を理解し、小規模の翻訳プロジェクトを管理できる。初歩的な翻訳エディティングができる。	△		◎		◎	△	○	◎
通訳翻訳実習	選択科目 専門科目	3・4	通訳翻訳クラス内で習得した知識とスキルをもとに、グループまたは個人で地域や学内における実際の通訳・翻訳プロジェクトに取り組むことで、コミュニケーションの仲介者としての役割を果たし、依頼者、ユーザー、同僚と効果的な意思疎通ができる。	△		◎		◎	△	◎	◎
通訳翻訳の理論と研究	選択科目 専門科目	1~4	翻訳通訳学の主要な理論、研究アプローチ、実証研究の成果や動向などを理解し、説明できる。通訳翻訳研究のためのリソースについて理解し、研究計画書を作成することができる。	○				○	◎	○	○
通訳翻訳と多文化社会	選択科目 専門科目	1~4	行政、福祉、医療、司法の場における音声および手話通訳の現状を学ぶことによって、多文化多言語社会におけるコミュニケーションの課題について理解し、説明することができる。	○				○	◎	○	○
通訳翻訳の歴史	選択科目 専門科目	1~4	通商、外交、紛争、植民統治、布教など歴史におけるさまざまな異文化・異言語接触の状況で通訳者・翻訳者が果たした役割とその現代的意義について理解し、説明できる。	○				○	◎	○	○
メディアコミュニケーション論	選択科目 専門科目	1~4	マスメディアやソーシャルメディアなど様々なメディアを媒介としたコミュニケーションの特徴を理解し、説明することができる。現代社会におけるメディアを媒介としたコミュニケーションの役割や可能性について多角的視点から考察できるようになる。自らもメディア(とりわけソーシャル・メディア)の参加者の一人としてメディアにより自覚的にかかわることができるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
非言語コミュニケーション論	選択科目 専門科目	1~4	非言語コミュニケーションに関する理論や概念を用いて、実際のコミュニケーションにおける非言語メッセージの特性・機能・意味を説明できるようになる。また、実際のコミュニケーション状況において、非言語コミュニケーションをより多角的に観察したり、自覚的に実践したりできるようになる。	◎	◎	△	△	○	○	◎	○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
異文化トレーニング演習	選択科目 専門科目	2~4	文化背景を異にする人々が円滑にコミュニケーションを行うために開発された異文化研修プログラムの体験学習を通して、異文化コミュニケーション能力を養い、あわせて異文化トレーニングプログラムの計画や実践の基礎的能力を身につけ、それを自ら使用することができる。	○	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
異文化コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	3・4	文化・人・コミュニケーションの関係を軸に、社会的問題のみならず、常識の範疇で捉えられてきたような現象にも目を向け、その背後にある構造をミクロとマクロの視点から読み解き、説明することができる。異文化コミュニケーションに関わる具体的なテーマ(例えば、日本社会における多文化共生の実践など)を取り上げ検証することで、異質性といかに向き合うかについて考え理解を深め、議論することができる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
対人コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	対人関係に密接に関わっているコミュニケーションについて、日常生活でみられる身近な現象をもとに考えることができる。自己、他者、アイデンティティ、自己開示、帰属意識、ステレオタイプなど対人コミュニケーションに関わる基礎概念を学び、友人間、家族間、世代間、異性間、医師/患者間など、様々な人間関係にコミュニケーションがどのように関与しているか理解を深め、自らの言葉で説明することができる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
集団コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	集団コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、集団コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、集団内の人間関係、役割、交渉などの側面に焦点を当て、集団内及び集団間コミュニケーションの実態や問題点を自ら考え、語るできるようになる。	◎	◎	△	△	◎	◎	◎	◎
説得コミュニケーション論	選択科目 専門科目	3・4	説得コミュニケーション研究において鍵となる用語・概念・理論の学習や、ケース・スタディを通して、説得コミュニケーションに対する理解を深め、説明することができる。具体的には、「コミュニケーションが社会で持つ力」や「力がコミュニケーションに与える影響」など説得をめぐる諸問題について考え、討議することで、説得コミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
グローバル社会とコミュニケーション	選択科目 専門科目	3・4	グローバル化が進む現在において私たちが直面しているコミュニケーションを巡る諸々の問題や課題を分析・討議することで、現代社会における国境を越えた交流について多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎	○	△	◎	◎	◎	◎
コミュニケーション・テクノロジーと社会	選択科目 専門科目	3・4	コミュニケーション・テクノロジーが歴史的にどのように発達し、どのような変化を社会にもたらしたのかを理論と事例研究の双方から理解し、説明することができる。また、テクノロジーが私たちのコミュニケーションのあり方に及ぼす(及ぼしうる)影響についても多角的な視点から考察できるようになる。	◎	◎				◎	○	◎
コミュニケーション研究調査法	選択科目 専門科目	3・4	多様なアプローチからのコミュニケーション研究方法論の基本的な考え方や、強みと限界について説明することができる。さらに、卒業研究のテーマに適切な研究方法を選び、それにしたがって研究を進めることができるようになる。	◎	△	△	△	△	◎	○	△
コミュニケーション特論	選択科目 専門科目	3・4	コミュニケーションに関係する特定のトピックに焦点を当て、コミュニケーション学の立場から掘り下げて考察していくことによって、地域的アイデンティティ、エスニシティ、ジェンダー、セクシュアリティなど、様々な社会文化的領域に位置づけられる現象とコミュニケーションとの関わり、特にコミュニケーションがそれらをどのように作り出しているのかについての確に理解し表現することができる。	○	○				◎		○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
グローバル文化研究特論	選択科目 専門科目	2~4	グローバル化における「文化」の機能について理解し、説明することができる。また、文化圏を超えて提供される「グローバル文化」の生成及び各地での受容とその影響について、具体例を用いて分析し、考察することができる。	○	◎		△			△	○
カルチュラル・スタディーズ特論	選択科目 専門科目	2~4	文化の国境を越えた移動によって起きる混交・流用・発明がどのような文化的多様性を生み出しているか、また文化の生成がどのように民族的・人種的・階級的アイデンティティの構築に結びついていくかを、カルチュラルスタディーズの観点から理解し説明できるようになる。	○	◎				◎	○	◎
グローバル化と思想	選択科目 専門科目	3・4	テクノロジーの発展とともにヒト、モノ、カネ、思想などが飛躍的な速度で行き交うようになったプロセスを学びながら、近代化以降の世界の実情を、その肯定的側面と否定的側面を思考する可能性を含めて、相互影響と受容の観点から多角的に考察することができる。	○			○		◎		◎
宗教文化論	選択科目 専門科目	3・4	異文化間のコミュニケーションを行うために欠かすことができない、目に見えない世界との交信、超越的な力、神(神々)の存在を含む「宗教」についてその全体像を理解し、宗教文化の意義や意味を知ることができる。	○	○				○		◎
エスニシティとナショナリズム	選択科目 専門科目	2~4	近代民族国家の形成とともに時代的背景をもって生み出されたナショナリズムと、その展開に関連しつつ、社会の内外に形成された諸集団の集団的・自己認識としてのエスニシティのあり方、および相互関係を学ぶことができる。そこから社会の少数者を尊重する意義を学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
人と移動研究	選択科目 専門科目	3・4	前近代の国境にとらわれない時代の人の移動から、国境にとらわれざるをえない時代の移動までを視野に入れ、移動の要因がどのように生み出されてきたかを、侵略、植民地支配、内戦、紛争や様々な経済的背景に至るまで広い視野を持って知り、そこで生まれる特徴的な文化・社会の営みについて学ぶことができる。	◎	◎			◎	○	○	◎
言語文化論	選択科目 専門科目	2~4	ある国や地域の人々が言葉によって培ってきた思想や文化を鑑賞・分析することによって、人間の営みの多様性を理解し、自文化を相対化する視点を獲得することができる。また、言語や文化の衝突や受容が生み出す諸問題や創造性を理解し、考察できる。	○	◎	△	◎	○	○	○	◎
グローバル化と言語	選択科目 専門科目	3・4	国家や地域、民族の文化的アイデンティティの基盤としての言語が、政治的・歴史的に構築されてきた過程について理解し、説明することができる。グローバル化に伴って変容する言語とアイデンティティ(言語権、ナショナリズムなど)の関係等、近・現代の言語・民族・国家をめぐる諸問題について、分析、考察することができる。	◎	○		◎	◎	○	○	○
言語政策論	選択科目 専門科目	3・4	公用語政策、少数民族や移民に対する言語政策、教育課程における外国語教育政策など、世界各国や地域の言語状況や言語政策を把握し、説明できる。言語紛争、マルチリンガリズム、言語権、言語維持、危機言語などについても理解し、これらを通じて言語と文化や社会の関係を深く認識できるようになる。	○	○		○				◎
多文化共生特論	選択科目 専門科目	3・4	さまざまな文化の並立する世界を認識し、文化の差異によってもたらされる現象を具体的に述べるができる。また、多元的で異なる文化が互いに尊重されながら共生するための方策について、客観的に論じることができる。	△	△					○	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
国際協力・開発学特論	選択科目 専門科目	2~4	グローバル化する現代世界が抱える戦争、貧困、環境破壊、性の格差などの諸問題に対して、国際協力や国際開発学がどのように向き合い、問題解決を図っているのか、さらには、そこに、どのような構造的課題があるのかを理解することができる。	○	○				◎	○	◎
開発と文化	選択科目 専門科目	3・4	開発の進展に伴う文化変容の諸相を学ぶことができる。開発支援が文化についてどのようなアプローチをとってきたかを批判的に検証することを通じて、新たな支援の方法を模索することができるようになる。	○	○				◎	○	◎
紛争研究	選択科目 専門科目	3・4	世界各地の地域紛争の具体例を学ぶことを通じ、多様かつ複雑な紛争の要因を理解することができるようになる。国際社会が地域紛争に対してどのような役割を果たし、協力ができるのかについて、考察を深める。	○	○				◎	○	○
環境コミュニケーション論	選択科目 専門科目	2~4	自然環境イメージや自然と人間の関係性が社会的(とりわけ言説的)に構築される過程を理解し、説明することができる。環境政策、環境キャンペーン、環境運動等においてコミュニケーションが果たす(果たしうる)役割や機能について多面的かつ多角的に考察することができる。	○	○				○		○
自然文化論	選択科目 専門科目	3・4	人間を取り巻く自然環境と人間が築き上げてきた文化をめぐる関係をどのように理解すればいいのかに関して、見取り図を手に入れて、考察するための能力を身につけることができる。	○	◎						△
人間環境論	選択科目 専門科目	3・4	人間の安全を、国家や社会との関係だけではなく、それが成り立つ自然環境を含めて理解できるようになる。個人や社会の安全を軍事や政治社会の側面からのみ捉えるのではなく、環境破壊、災害、感染症、テロなど国境を越える脅威からいかに確保できるのかについて包括的に考察する。	○	○				◎		○
英語圏文学論	選択科目 専門科目	2~4	英語圏の文学について学び、詩、小説、戯曲などに表現される人間の営みについて考えることにより、その地域への理解を深め、文学を批評的に分析し論じることができるようになる。	○	○						
フィールドワーク	選択科目 専門科目	2~4	対象となる人々の生活に参加しつつ他者の「ものの見方」を理解しようとするという、独特の研究手法であるフィールドワークについての基本的知識を獲得するとともに、その方法を実習を通して理解し、自分の研究に活用できるようになる。	○	◎				◎	◎	○
グローバル・スタディーズ研究調査法	選択科目 専門科目	3・4	グローバル文化研究、国際協力・開発学、サステナビリティ学の研究を進めるために、文化の境界を越えて行われる調査研究には何が必要であるのかという課題を含めて、調査の手法について学び、身につけることができる。	○	○				◎	◎	○
複合地域文化研究	選択科目 専門科目	2~4	さまざまな文化の交流や衝突、あるいは融合といった現象を具体例に則して学び、説明することができる。文化の変容のあり方を多角的に理解し、自ら意見を述べるすることができる。	◎	◎	○					○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
芸術論	選択科目 専門科目	3・4	音楽・美術・演劇などの諸芸術について、芸術の定義、理論を知り、地域性、時代性、あるいは個別の作家の特性を踏まえた的確な理解に基づいて、自分なりの芸術論、芸術観を論じることができる。	◎	◎	△		△	△	○	◎
Special Topics in ICC	選択科目 専門科目	2~4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバルスタディーズ」における特定のテーマについて深い知識を獲得し、英語で自らの意見を述べたり、討議をすることができる。	◎		○	◎			◎	◎
Academic Skills	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部で学ぶための基礎となるコミュニケーション力、情報リテラシー、論理的思考力を身につけ、英語で論理的な文章を組み立てることができる。また、グループ活動を通して自分の意見を客観的に分析し相手に伝え、他者の意見を積極的に理解していく姿勢を身につけることで、他者と協力的に討議することができる。	◎	◎		△				○
Overview of Language and Communication Studies	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、言語・コミュニケーションの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			○			◎	◎
Overview of Global Studies	必修科目	1~4	異文化コミュニケーション学部所属の教員の多様な研究分野に触れることにより、グローバル・スタディーズの研究について基本的な知識と多角的な視点を持つことができる。それを通じて、この学部でなにをどのように学ぶのか、履修者が自ら考え判断することができる。	△			△			◎	◎
Introduction to Linguistics	選択科目 基礎科目	1~4	言語の構造と機能に関する基礎知識を持ち、身近な言語現象に関して言語学的な観点から説明することができる。言語の多様性について理解し、母語や学習している言語、その他様々な言語の特徴を対比してその違いと共通点について考えることができる。	◎	○						
Introduction to Translation and Interpreting Studies	選択科目 基礎科目	1~4	異言語・異文化間コミュニケーションにおける仲介行為としての通訳翻訳という視点から、現代社会における通訳翻訳のさまざまな実践状況および主要な課題について理解し、説明することができる。通訳翻訳研究における基本的な用語と概念を理解し、説明することができる。	△				○		△	○
Introduction to Communication	選択科目 基礎科目	1~4	コミュニケーションにかんする基礎的な理論およびモデルを理解し、説明することができる。同時に、コミュニケーション学と隣接分野との共通点や相違点を理解し、説明することができる。日常的に行っているコミュニケーションを以前とは異なった視点で観察したり、より自覚的にコミュニケーションに向き合えるようになる。	○	○					◎	◎
Introduction to Intercultural Communication	選択科目 基礎科目	2~4	(異)文化の概念を単なる国民国家の枠組みで捉えることなく、「我々」と「彼ら」の境界線はどのような文脈で立ち上がってくるのかという視点で、多角的に異文化コミュニケーションの諸相を説明することができる。言語と非言語、コミュニケーション実践と意味付け、アイデンティティ、ステレオタイプ、異文化適応などをテーマに、異文化コミュニケーションの基本概念や理論について理解し、説明することができる。	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
Introduction to Mass Communication	選択科目 基礎科目	1~4	マス・コミュニケーション研究やメディア研究における代表的な理論や研究アプローチを理解し、現代社会における多種多様なメディア現象の分析・考察に応用することができる。	○		○				◎	○

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考えて行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係性を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
Introduction to Cultural Studies	選択科目 基礎科目	1~4	様々な文化的表現(文学、音楽、メディア等)がどのように社会と結びついているかを考えようとする学際的な領域であるカルチュラルスタディーズについて基本的理解を獲得し、説明することができるようになる。また、周囲に存在する様々な文化的表現を社会的な問題と結び付けて把握することができるようになる。	○	◎				◎	○	◎
Introduction to International Development and Cooperation	選択科目 基礎科目	1~4	国際協力の基本的な考え方と方法、および日本が国際協力を展開するようになった経緯を理解することができる。身近なことから国際協力が実践できることを発見し、学生として何が出来るかを具体的に考えることができる。	○	○				◎	○	○
Culture & Identity	選択科目 基礎科目	1~4	Students will be able to explore the intersection of culture, identity, and language from both theoretical and empirical perspectives. They will also be able to analyze how identities are shaped, negotiated, and contested in various social and cultural contexts.	○	○		○		◎	△	◎
Teaching English to Speakers of Other Languages : Basic Principles	選択科目 専門科目	3・4	Students will understand and be able to explain the origins of and primary influences on modern-day TESOL contexts. Students will be able to distinguish and illustrate the differences among approaches to TESOL. Students will consolidate the course content to produce a solid belief in how to approach a TESOL classroom.	○	○					○	
Communication and Citizenship	選択科目 専門科目	3・4	市民概念の形成、市民社会の変遷、シティズンシップ教育等におけるコミュニケーションの役割を理解し、説明することができる。コミュニケーションの理論・方法を援用しながら、市民運動や市民権をめぐる論争等を多角的に分析することができるようになる。自らも一人の市民としてコミュニケーションにより自覚的にかかわることができるようになる。	○	○	○			◎	○	◎
Media in Japan	選択科目 専門科目	3・4	メディア研究領域における理論や概念を援用しながら、日本社会におけるメディアと社会の諸関係を理解し、説明することができる。メディア・テキストの生産・流通・消費過程を理解した上で、日本のメディアで流通するメッセージを批判的に分析することができる。メディア(とりわけソーシャル・メディア)の参加者の一人として、より自覚的にメディアにかかわることができる。	○		○			◎	○	◎
Gender Issues in Communication: Critical & Cultural Perspectives	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to apply key concepts and theories in gender studies to everyday experiences. They will develop a deeper understanding of how gender identities are constructed, maintained, and challenged through one's body and communication. They will be able to think critically about femininity and masculinity which are culturally/socially defined and expressed/practiced by individuals.	○	○	○	○		◎	○	◎
Contemporary Culture in Japan	選択科目 専門科目	3・4	Students will gain insight into contemporary Japan by exploring the cultural and historical context of social issues such as immigration, gender relations, work patterns, stress, declining birthrate, nuclear power, and environmentalism, as well as cultural topics such as anime, literature, fashion, cinema, and food. Through these topics students will better understand Japan's place in the world and how Japanese culture will adapt to globalization.	◎	○			◎			○
Religions in Japan	選択科目 専門科目	3・4	アニミズムや神道、仏教やそれらの習合、近代のキリスト教の信仰の広がり、現代の新興宗教までを視野に入れて、日本の宗教現象や実践に関して、英語を用いて、外側から客観的に捉えることによって、日本の宗教文化について論じる能力を身につけることができる。	○	◎	◎		○			

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)								
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え、自らが行って行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者によりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。	
Transcultural Cinema	選択科目 専門科目	3・4	映画とは、排他的な伝統文化や国境によって決められる民族文化とは異なるトランスカルチャー、又は芸術様式であることを理解し、様々な地域のグローバル社会において制作された映画やフィルム・プラクティスを、共存社会のための文化的実践として考察し、分析することができる。映画に再現されている文化的多様性、地域と国家を越えた普遍的価値、文化的ハイブリッドを批判的に分析し論じることができる。	◎	◎			◎			◎	
Japan in Asia	選択科目 専門科目	3・4	Japan's relations with its Northeast Asian neighbors have come to be defined in part by wars of historical interpretation as seen in political exchanges as well as in history textbooks, museums, and social culture. Students will be able to examine these differences in diverse contexts to gain a broader understanding of Japan's modern relations with its Asian neighbors.	○	△			◎		◎		
Orientalism in Media	選択科目 専門科目	3・4	新聞、雑誌、映画、テレビドラマなど、多様な分野やジャンルのメディア・テキストにおける西欧のオリエンタリズムとジャパニズムの背景と影響を分析することができる。中東アジアにとどまらず、アジアや非西欧社会全般にわたって普遍的なものと思なされてる西欧中心的世界観と秩序意識、差別的な地域観、常識化された不都合と偏見、オリエンタリズムを批判的に考察することができる。	◎	◎				◎		◎	
Language Policy and Multilingualism	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to understand language situations and policies in various countries and areas in the world such as official language policy, policy towards minority and immigrants, and foreign language teaching policy. They will be able to explain these policies as well as well as such issues as language conflict, multilingualism, language maintenance, language rights, and endangered languages. Students will be able to deepen their knowledge and understanding of the relationship between language and society/culture.	○	○			○			◎	
International Development and Sustainability	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to understand key theories and conceptual models underlying the analysis of international development and sustainability. They will also be able to use the theories and models to actively engage in problem-solving and policy analysis regarding social, political, economic, and global issues.	○		○				◎	◎	◎
International Conflict Studies	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to examine basic elements of conflict and resolution both at theoretical and practical dimensions. From the fundamental questions of what is war and peace they will be able to analyze past wars to understand mistakes in peace maintenance and present day conflicts in search of means to avoid war.					◎	○	◎	○	○
Ethnicity and Globalization in Japan	選択科目 専門科目	3・4	日本社会におけるグローバリゼーションと人種差別主義、そして、単一民族主義に基づく集団的アイデンティティを考察し、分析することができる。移住労働者と少数民族集団などの人種的マイノリティーが日常生活に感じる疎外感と社会的孤立、主流社会による統合・差別政策、文化的共存に対し多様な立場を見せる社会集団の葛藤と社会調和を模索する過程を分析し論じることができる。	◎	◎				◎			◎
Multiculturalism in Japan	選択科目 専門科目	3・4	多文化共生・多文化主義に関連する理論や概念を用いて、日本社会における多文化的状況について理解するとともに、その課題について多様な側面から考察することができるようになる。	◎	◎	◎		△	◎	◎	◎	◎

異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科のカリキュラム				異文化コミュニケーション学部の学修成果との関連 (◎=強く関連、○=関連、△=やや関連)							
科目名	科目区分	配当年次	科目の学修成果	1)論理的に思考し、的確に自己を表現することができる。	2)自己客観化と他者理解に基づくコミュニケーションができる。	3)グローバル化する世界の中で必要とされる、複言語・複文化能力を身につけることができる。具体的には、二つの外国語(英語、ならびにスペイン語、中国語、朝鮮語、ドイツ語、フランス語のいずれか)でコミュニケーションすることができる。	4)多文化・多言語共生、国際協力の視点から、持続可能な未来、より豊かな社会の構築につながる言語教育について理解し、実践することができる。	5)日本語以外を母語とする生活者を日本社会につなげる橋渡しをすることができる。	6)異文化コミュニケーション学における主要な概念、理論、研究・調査手法に対する基礎的な知識を身につけ、それを文化間・国家間・地域間・世代間・個人間など様々な領域で「異なる」ことから生じる問題、課題の解決に応用することができる。	7)教室での学びを、現場での実践に結びつけ、自らが考え行動することができる。	8)文化や言語の多様性を理解し、多様な他者とよりよい関係を築き、ともに持続可能な未来に向けた取り組みを進めていくことができる。
International Organizations	選択科目 専門科目	3・4	Students will develop a better understanding of the emergence, growth, and proliferation of international organizations, the factors that contributed to their development, and their effects at local, regional, national, and transnational levels. They will also be able to apply theories of international relations to analyze and assess the negotiation and decision-making process among various actors involved in international organizations.	○	○		○		◎	○	◎
Social Movements & Social Change	選択科目 専門科目	3・4	Students will be able to apply key models and theories in the study of social movements to analyze and assess the role and impact of social movements in contemporary societies. They will also develop a better understanding of the cultural and communicative dimensions of social movements.	○	○		△		◎	○	◎
専門演習1～3	選択科目 専門演習・卒業研究	3・4	卒業研究作成のテーマや計画の検討、完成までの手順や方法に関する指導を経て、各自が卒業研究を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業研究	選択科目 専門演習・卒業研究	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバルスタディーズ研究」の中から各自が選択した卒業研究を完成させることができる。	◎			○		◎		◎
卒業課題	選択科目 卒業課題	4	「言語研究」「通訳翻訳研究」「コミュニケーション研究」「グローバルスタディーズ」にかんする幅広い知識や技能を身につけ、異文化コミュニケーション学部を卒業し社会に出るにふさわしい識見を獲得することができる。	◎			○		◎		◎